

青葉区民文化センター フィリアホール 令和5年度(2023年度)事業計画

東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体

◎第3期の青葉区民文化センターがめざすもの

上質文化発信拠点としての「フィリアホール」と地域の文化施設としての「青葉区民文化センター」の両輪での役割は変わりません。文化事業・地域事業・施設運営の各業務はともに強気に連携し、「地域を音楽でつなぐ」活動を通じた地域基盤の醸成・人材育成に注力し、施設運営面でも活動する市民団体や個人への支援応援という側面を模索します。提案に掲げている「ひと」と「まち」の未来へ文化でつなぐステーション」というビジョンスローガンを考え、地域文化醸成の一拠点として、青葉区民文化センターは積極的な役割を様々な面で展開します。本施設の活動が、さらにその先の人々の繋がりの一助となり、その先にも分岐して様々な広がりが見られることを期待します。

第3期の各使命と具体的な事業計画との連携確認

第3期における1～6の各使命の具体的な事業計画では文化事業・地域事業・施設運営・施設管理の各事業が、相互に連携協働し、各々の事業範囲の中で、関連する使命の達成に向けた役割を担います。事業計画においては、各事業毎に計画を立て、その中で各業務と各使命との連動を表記していきます。

◎各使命の遂行の具現化

●使命1:文化芸術の活動と体験の場となる

・文化芸術に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援

使命1の中心は施設運営業務。本施設が成果を発表する場、日々の練習など文化活動の場としてご利用いただくため、利用者ファーストの対応を行います。ご利用者の活動を技術サポート、広報支援を通じて支援していきます。地域の活動支援では、地域事業において、企画イベントや施設外拠点での活動のコーディネーター役を担います。地域の施設とのネットワークを生かし、様々な拠点でも活動が展開できるための支援を行っていきます。活動支援の観点から、文化事業・施設運営・地域事業の各担当の総合作業として、アーティストデータベースの構築を行い、市民団体や個人の活動の支援ができるようにしていきます。

●使命2:文化芸術活動を担う人材を育む

・地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やし、地域住民の文化芸術活動の可能性を拡充

使命2では、文化事業と地域事業が連携して「興味関心を高めるための体験・鑑賞機会」創出を図り、そこから、本格的なアーティスト育成、地域の音楽家の育成、そして文化事業を企画し、支えるべく地域の人材育成を進めます。地域事業では区民企画やアウトリーチの企画を通じて地域の活動家や地域の企画醸成という分野を担い、また区民サポーターなどの協力する人材育成にも努めます。

●使命3:文化芸術の鑑賞の機会を提供する

・音楽を中心とした質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、感性豊かで多様な価値観を受け入れる区民文化醸成に貢献

使命3は、文化事業による鑑賞機会の提供が中心となります。フィリアホールの名に相応しい上質なクラシックコンサートを提供していく「コンサートシリーズ」と気軽に鑑賞や体験の機会を作る「エデュケーション&コミュニティ」の2つを軸に展開をしていきます。地域の音楽ホールとしての高品質な音楽を提供する一方で、気軽に参加して、音楽を楽しみ体感する企画を行います。さらにフィリアホールならではのミュージック・アカデミープログラムの企画を通じて新たな育成教育事業にも取り組みます。

●使命4:幅広い人を受け入れ、地域を結びつける

・社会的包摂を踏まえた利用者本位の運営。文化施設としての役割と専門性をふまえ、地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成に寄与

使命4は、地域事業の分野が中心です。これまで築いてきたネットワークをさらに拡充していくためにも、新たなネットワークを開拓して、地域コミュニティ・地域の文化的コモンズ形成をめざします。第3期も地域をつなげることをビジョンに掲げる中で、本施設での企画、外部拠点へのアウトリーチ、さらには区制30周年の年には地域全体を巻き込む企画展開などを考えます。加えて、施設運営の分野でも社会的包摂を意識し、ハード面での課題を除き、あらゆる人のご利用を妨げないようにします。

●使命5:持続可能性を高める施設運営を行う

・保守/点検や予防的修繕などの維持管理、安全快適な施設維持。効率的経費執行や収入増により、安定的施設運営

使命5は、施設管理部門が中心となります。安全安心でホスピタリティを提供できる施設をめざすには、日常点検保守、小破修繕などをうまく連携させ、施設維持管理業務を推進します。中でも劣化の進む施設設備に対しては、市及び区とも協議し、大きなトラブルになる前の事前の更新工事を進めるようにし、必要な計画率を行います。予防保全の徹底、適切な修繕を励行。適切な収支による運営管理を行います。

●使命6:不測の事態(新型コロナウイルス感染症等)の影響を想定し、施設運営を継続する

・感染防止対策の下、各業務を実施し、市民活動基盤となる施設運営を継続。その他感染症や不測の事態でも適切な対策により、継続して利用できる施設運営継続

使命6はすべての部門が共同して対応します。Withコロナを確立し、感染対策徹底による施設利用や文化事業の継続的開催ができる体制を作ります。その他の感染症や防災に関してもマニュアルを確立し、対応力を強化していきます。

●総合的な運営管理の使命

第3期の運営方針として、8つの方針を掲げました。①公正公平平等な施設管理、②安全かつ適正な維持管理、③適正かつ健全な収支構造、④円滑な業務執行体制、⑤危機管理の徹底、⑥地域とのネットワーク構築、⑦個人情報保護、⑧地域への還元。指定管理料を中心に利用料収入・自主事業収入による収入と必要な支出の適正化を図り、一部協賛金等の外部収入も模索していきます。物価やエネルギー単価高騰などの背景の中で、削減できるものは削減しながら、安定した収支構造が保てるようにしていきます。管理運営と事業企画の各々に精通したスタッフの必要要員を配置しながら、機動的かつフラットな組織で運営し、サービス向上や新たなノウハウによる様々な新規の活動展開ができる土壌を生み出していきます。

◎第3期初年度 令和5年(2023年)の青葉区民文化センターがめざすもの

令和5年(2023年)は、第3期初年度にあたり、その基本ビジョンと各使命の目標を踏まえつつ、具体的な活動を積み上げていく年とします。今年度は、天井工事からのリニューアルオープン、施設の開業30周年の年にあたります。ホールでの自主事業では、リニューアルと30周年の各々を冠に掲げたコンサートを実施します。地域事業は、第2期の実績を踏まえ、より内容のある、意義のある活動となるよう、文化事業担当との連携を強化し、新たな視点での企画を実施していきます。施設運営では、利用促進のための方策を検討し、多くの方のご利用促進を図ります。経年劣化の進む各種機器類の維持管理を綿密に行い、できる範囲の改修による延命と不測のトラブル回避を図ります。全体を通して、費用管理に努め、高騰する光熱費とのバランスを取っていきます。

第3期令和5年(2023年)の各事業計画の基本方針(…以下は各使命との関連) 詳細は各事業計画にて

●文化事業…使命1・2・3の達成に向けて

令和5年(2023年)の文化事業は、上質なクラシックコンサートを中心とした「コンサートシリーズ」と気軽に参加でき楽しめる音楽体験の「E&C」の2軸で展開します。「コンサートシリーズ」は、開業以来初の抜本的なシリーズ構成の見直しを行います。新たなシリーズ展開に加え、単独での企画も開催します。さらに今年度は、リニューアル記念と開業30周年記念をまじえ、Withコロナでの新たな文化発信のめざします。E&Cでは、地域コミュニティ向け企画で地域とのつながりを強く意識した視点を取り入れた展開を行います。ミュージックアカデミーの企画では、従来の継続公演に加え、より「人材育成や音楽家育成」の視点を多く取り入れ、継続するフィリア室内楽アカデミアの展開に加えて、マスタークラスやレクチャーコンサートの開催を実施します。

●地域事業…使命1・2・3・4の達成に向けて

令和5年(2023年)の地域事業は、基本ビジョンに示したステーション施設となるため、使命4の文化的コモンズ形成への寄与を中心にした活動を展開します。新たなネットワークの開発にも積極的に取り組み、地域施設や地域の人々を幅広く取り入れるための活動を展開していきます。文化事業と施設運営の分野と密接に連携し、本施設を中心にあらゆる施設や場所に音楽を届けるため、地域の施設へのアウトリーチ活動の充実を図ります。区民企画や各施設での企画実施を通じて、文化事業を担う地域の人材育成にも重点を置き、人たちと協働して企画の展開、事業の拡充を図ります。

●施設運営…使命1・4・5・6の達成に向けて

令和5年(2023年)の施設運営は、公平平等の利用者ファーストを基礎に活動を行います。今年度は、下期に始まる新たな予約システムへの対応を行い、ご利用者への説明・各種システム対応を進めます。ホールも含め安定して高稼働維持が目標です。利用を通じた打合せや本番のサポートを通して、地域の人達の知識や実際の対応などの習熟や育成を進めます。さらに施設を利用する団体や個人との連携を深め、地域文化向上に協働で取り組むためのデータベース確立や活動支援の基盤づくりを進めます。

●施設管理…使命5・6の達成に向けて

令和5年(2023年)の施設管理業務は、各事業が円滑かつ効果的に実行に移せるように、施設の保守保全、効率的運営推進を進めます。安心安全快適な施設環境の維持はもとより、リニューアルの後に残っている各種設備や各種機器類の改修更新、機能向上といった部分を長期的視野に立って進めていきます。SDGsな環境整備、収益体制の確立により、各事業の展開の基盤を作ります。また、組織では、新たに「副館長」を選任するなど新体制による組織と要員の連携強化を図ります。

●令和5年(2023年)での新たなノウハウやサービス向上

第3期提案では、新たな施設活性化への取組として、利用促進・利用継続・広報活動の3分野での提案をしています。今年度は、既に導入しているWifiや動画配信機能などの活用を促進したサービス文化発信の向上を図ります。予約システム変更に関連したキャッシュレス化や新たなカード利用の拡大へも取り組んでいきます。広報や情報収集という面では、WEB等の利用促進と高齢者等を想定したアナログなサービスとの両立を図り、「すべての人」に伝わる広報の仕方を進めていきます。

●「第3期初年度の事業計画全体方針」

リニューアルオープンと開業30周年に取り組み、提案に掲げた「文化発信」「人材育成」「地域活性化」といった諸課題に対して、一つ一つ結果を出していける地道な取り組みを重視していきます。Withコロナが一般化し、平常時の活動再開が始まる年ではあります。感染対策や利用制限なども段階的に見直し、今年度からは文字通り「平時」の状態での文化鑑賞や文化活動の再開が取れるようにしていきます。各使命の達成に向け、まずは各事業を安定して展開していく基礎を作り、その中から、提案してきた項目を一つ一つ具現化し、実行し、その成果を広く区民、市民に広げていくようにしていきます。

I. 第3期の文化事業の基本方針

1. 文化事業活動の基本方針

第3期の文化事業の基本は、使命3の文化芸術鑑賞の機会提供です。フィリアホールの高品質の文化発信は、地域事業とも連携し、地域の人々に上質な音楽を届けていく事業を展開します。使命2の人材育成にも関連企画を展開していきます。第3期文化事業は、優良なコンサートを発信する「コンサートシリーズ」と地域との連携や人材育成を重視した「エデュケーション&コミュニティ」の2軸での展開を図ります。

2. 第3期の「コンサートシリーズ」構成

多数のシリーズが乱立していた状況を見直し、「(土曜ソワレ)女神との出会い」「(JUST ONE WORLD)ただ一つの世界」「(マイ・フィールド)私の人生、私の音楽」「(土曜ティータイム)音楽のある風景」「フィリア・ハイムコンツェルトシリーズ」の5シリーズは2023年5月をもって発展的解消し、新たに下記3シリーズを主軸として展開します。

新たなシリーズは「土曜マチネシリーズ」「ランチタイム・コンサート・シリーズ」「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」です。また「山崎伸子プロデュース 輝く若手演奏家による『未来に繋ぐ室内楽』」も、ホール音響に最も相応しい「室内楽」分野に特化した年1回の恒常開催シリーズに位置付けていくことを検討します。さらに、開館以来全国各地から集客している海外アーティスト招聘公演、年度ごとに特色あるコンサートは、今後シリーズの枠に収めない単独での開催も積極的に行うほか、5年間通じての特別企画として「日本におけるクラシック音楽発祥の地・横浜」の歴史を音楽とトークでたどる特別シリーズ「横濱音楽物語」を展開します。

3. 第3期の「エデュケーション&コミュニティ」の構成

第3期のエデュケーション&コミュニティ(E&C)のプログラム展開は、2期に続いて、「キッズ&ファミリー」「ミュージックアカデミー」「地域コミュニティ」の3プログラムを軸に構成します。

「キッズ&ファミリー」は、夏・冬のファミリーコンサートや、幼児向けのコンサートやワークショップを展開します。誰もが楽しく音楽に触れあえ、そして癒される時間を提供していきます。

「地域コミュニティ」では、ロビーコンサートやオープンデーといった形で、気軽な音楽体験や楽しみの醸成を図ります。あらゆる人々を受け入れる企画を提案し、音楽を通して地域の方たちが集える空間を目指します。

「ミュージックアカデミー」は、「人材育成」という視点を重視し、今までのラインナップを踏襲しながら、今期はマスタークラスやレクチャーコンサートなどを重視した企画を実施していきます。中高校生、地域の音楽家そしてプロを目指す若手のための様々な企画を提供していきます。

II. 令和5年(2023年)の文化事業計画

1. 令和5年(2023年)のコンサートシリーズ展開

●「土曜マチネシリーズ」

開館以来極めて長期にわたって支持を得ていた、土曜ソワレシリーズ《女神との出会い》の後継となる、フィリアホールコンサートの中心シリーズです。公演時間が夕方(ソワレ)から、より足を運びやすい土曜14:00のマチネ公演に移行し、《女神》シリーズで取り上げにくかった男性アーティストの公演も積極的に取り上げ、幅広いアーティストが登場予定です。《女神との出会い》は、2023年5月に、リニューアル記念企画として、第300回記念ガラ&フィナーレコンサートを開催。30年にわたる土曜ソワレシリーズの有終の美を飾ります。

○新マチネシリーズは、今年度は7本を予定。男女様々なアーティストにより、新たなシリーズは今後のフィリアホールの主軸となるコンサート展開を図ります。ラインナップの詳細は別途記載。

●「ランチタイム・コンサート・シリーズ」

従来の《らん・らん・ランチにいい音楽》シリーズの後継シリーズです。引き続き平日昼でチケット料金1500円のコンセプトは変えず、多彩なジャンルで楽しさを感じられる内容にしていきます。「気軽さ」と「本格的クラシック」の両立を趣旨にした企画で、一流のクラシック音楽を気軽に体験し、興味を喚起する企画として展開します。

○今年度は、6公演予定。多種多様な内容で、新進気鋭の若いアーティストに加え、今年は邦楽界で大注目の若手も登場します。まさに音楽の広がりを感じ体験してもらいたいと思います。ラインナップの詳細は別途記載。

●「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」

神奈川県を代表する神奈川フィルハーモニーの精鋭たちによる室内楽シリーズ。毎回好評を博し、ホール主催と共催の各1回を実施します。首席ソロコンサートマスターの石田泰尚氏を含む精鋭による室内楽は、毎回新たな編曲で大曲に挑戦し、フィリアホールの新たな発信の一翼を担っていただいています。

●シリーズ以外の単独企画

曜日や料金といったシリーズ特有の縛りにとらわれず、シリーズ展開ではなく、その年ごとに、話題性やテーマにそって、国内外のアーティストたちのコンサートをこれまで以上に柔軟に展開します。フィリアホールのお勤めや新たな出会いを誘えるようなコンサートを企画していきます。今年度はコロナ禍で来日できなかった海外アーティストなどを中心に企画します。ラインナップの詳細は別途記載。

恒例のニューイヤーコンサートも、趣向を凝らして実施します。

●第3期を通じた特別企画:「横浜音楽物語」

日本の西洋音楽の歴史において極めて重要な役割を果たした「横浜」という土地で何が起こったか、その歴史を、実際の演奏と共に知ってもらい、地域住民の文化的な関心を高めるとともに、横浜市の中心部から離れた青葉区だからこそできる、新たな「横浜」への文化的アイデンティティの醸成に寄与する企画として展開します。
年1回で5回シリーズ。第1回目は、明治期の横浜山手で実際に演奏されたコンサートの楽曲をそのまま再現するプログラムで、錚々たるメンバーで再現していきます。

●令和5年(2023年)の特別コンサート
◎リニューアルオープン記念コンサート

天井工事後のリニューアル記念コンサートは、5月のゴールデンウィークに2本開催します。前述の土曜ソワレシリーズの最終記念公演は、リニューアルオープン記念の一環でもあります。
5月1日の開業の直後の3日に出演するジョヴァンニ・ソツリマ(Vc)公演では、前日と当日の2回、たまプラーザ在住のチェリスト・海野幹雄との即興演奏ワークショップを開催。2日目はソツリマ・海野両氏との舞台上での共演ができます。もう一つは5月10日に開催。青葉区出身の小林海都(Pf)が、名門国際コンクール上位入賞後初の地元凱旋公演で登場。リニューアル記念&第3期の冒頭を飾るにふさわしい企画内容の公演を開催します。

◎フィリアホール開業30周年記念コンサート

青葉区民文化センターは1993年の開業以来30周年を迎えました。今年度は30周年記念として2つの特別公演を行います。1つは世界最高峰の弦楽四重奏団ハーゲン・クアルテットと大人気ピアニスト藤田真央との共演。もう一つは2022年仙台国際コンクール優勝の中野りな(Vn)。中野氏はフィリアホール室内楽アカデミアの前身「ドリームコンサート」企画の第1期生。ホールから世界に羽ばたくドリームを叶えてくれそうな新人の凱旋コンサートです。

2. 令和5年(2023年)のエディケーション&コミュニティの展開

●キッズ&コミュニティ・プログラム

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、ホールリニューアルオープンの年を飾る楽しい企画を実施したいと思います。夏冬ファミリーコンサートは入場可能年齢を0歳からに引下げを行い、家族と一緒に楽しめるとともに、年齢層に合った内容をしていきます。今後、ハンディのある方達にも来場いただける企画も検討中です。毎回好評のプチ・コンサートはホワイエでの開催に戻し、乳幼児と保護者の両方が楽しみ癒される企画を年2~3回実施していきます。ここでは若手アーティストを積極的に起用し、活動支援の一環として、若手音楽家達に活動の場の提供を進めます。

●地域コミュニティ・プログラム

「地域コミュニティ・プログラム」では、夏のオープンデーを復活開催します。これまで以上に「地域密着」「社会的包摂」の視点を意識し、多くの方に青葉区民文化センターでの一日を楽しんでいただく企画を考えます。
「ロビーコンサート」はホワイエで開催する入場無料の気軽なコンサートです。あまり音楽に詳しくない地域の方でも気軽に「青葉区民文化センター」に足を運んでいただき、音楽を楽しむひと時を提供していきたいと思えます。
地域コミュニティを考えた企画は、地域事業との連携協働により、青葉区民文化センターの外にも出ていきます。

●ミュージックアカデミー・プログラム

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、第3期の使命でもある「人材の発掘・育成・支援」という観点を存分に取り入れた企画を展開していきます。今年度は従来からの継続である、広上淳一氏の「白熱教室」、山崎伸子氏の「未来に繋ぐ室内楽」の二本は今まで通りの開催です。若手音楽家の発掘育成を視野に入れた「フィリアホール室内楽アカデミア」も継続し、新たな人材発掘と共に、ここから巣立った未来のある若手演奏家のコンサートも企画します。アカデミアの発展形として、今期より小中学生のピアニスト向けのマスタークラス&コンサートも実施します。

3. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域のオーケストラ公演などを、共催公演として年間10本程度実施します。従来のネットワークを生かし、ホール主催では実現が難しい、幅広いジャンルの文化芸術を提供します。従来貸館で実施してきた優良公演についてもこれまでより積極的にサポートします。コロナ禍による影響を見極めつつ、広報物(チラシ等)の共同制作等も検討し、従来以上に密な開催の促進を検討します。各種コンクールとの連携も強化し、協力事業として積極的に支援をし、若手の発掘に協力していきます。

4. 文化事業の安定化のための広報販促の充実・利便性向上

内容の素晴らしいコンサートであっても、それを鑑賞する人達に的確に伝えられなければ、集客には繋がりません。事業収入を安定的に確保し、より多くの区民に鑑賞していただくためにも、広報活動は重要な業務だと認識しています。SNSやWEB広告をはじめ、高齢者向けの紙媒体(従来から改編)、ホームページのブラッシュアップ、区広報誌、タウン誌を活用するなど様々な方法で情報を届けます。現状のTwitter(ツイッター)に加えた新たなSNS販促も検討し実施します。また時代に即してクレジットカードの利用拡大等のキャッシュレス化にも取り組みます。販売券種でも学生券に代わり若い方たちをターゲットにした割安のチケット券種を検討します。高齢者、障がい者に配慮した販売方法や告知方法も併せて充実させます。

◎令和5年(2023年)度コンサート予定ラインナップ

土曜マチネシリーズ
・山根一仁&阪田知樹ヴァイオリン・リサイタル ・吉野直子&マリー＝ピエール・ラングラメハープ・デュオ ・三浦謙司ピアノ・リサイタル ・三浦友理枝 ドビュッシー:ピアノ作品全曲 ・宮田大&三浦一馬チェロ&バンドネオン デュオ・リサイタル ・仲道郁代&ウェールズ弦楽四重奏団ピアノ五重奏曲プロジェクト ・小林沙羅&福岡洸太郎ドイツリート企画
ランチタイム・コンサート・シリーズ
鳥羽咲音 チェロ 齋藤健太サクソフォン 中川優芽花ピアノ LEO箏 アレッサンドロ・カルボナーレクラリネット 山下愛陽ギター
神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ
「ヴェルディの弦楽四重奏曲」※石田泰尚氏出演
シリーズ以外の単独企画
ハイツ・ホリガー オーボエ・リサイタル カニサレス(フラメンコギター) ラファウ・ブレハッチ ピアノ・リサイタル キアロスクーロ・カルテット
ニューイヤー・コンサート
「モーツァルト饗宴」上原彩子・松田華音2台ピアノ&N響メンバーによる協奏曲
横浜音楽物語
横浜音楽物語 第1回 ナビゲーター:浦久俊彦
リニューアルオープン記念
ジョヴァンニ・ソツリマ 無伴奏チェロ・リサイタル+マスタークラス 小林海都ピアノ・リサイタル 女神との出会い300回記念ガラ&フィナーレ
開業30周年記念
ハーゲン・ワルテット&藤田真央 中野りなヴァイオリン
エデュケーション&コミュニティ
山崎伸子プロデュース「未来に繋ぐ室内楽」Vol.7 クアルテット・インテグラ・マエストロの白熱教室:指揮者・広上淳一の音楽道場 ・フィリアホール室内楽アカデミア:修了生コンサート/「未来にはばたくドリームコンサート2024」&「アカデミア・コンサート2024」 ・小中学生ピアニスト向けマスタークラス&コンサート(講師:岡田奏(ピアノ)上野星矢(フルート) ・夏・冬ファミリーコンサート・プチコンサート・ロビーコンサート・ワークショップ

◎令和5年(2023年)文化事業の収益予想

コンサートシリーズ		令和5年(2023年)実施想定		年間収支(税抜千円)	
公演(シリーズ)名	開催想定概要	令和5年(2023年)実施想定	収入	支出	
土曜マチネシリーズ	原則 土曜 午後 2時間・休憩あり	6・9・10・12・1・2・3の各月予定	13,495	9,092	
ランチタイム・コンサート・シリーズ	平日 昼 1時間・休憩なし	7・9・11・2・3の各月予定	3,176	2,668	
神奈川フィルの名手による室内楽	企画時設定 (共催でも実施)	自主6月・共催で9月実施予定	1,189	760	
シリーズ外特別企画	企画時設定	9・2・3の各月予定	11,399	10,628	
ニューイヤーコンサート	新年1中	1月予定	3,133	2,898	
横浜音楽物語	企画時設定 年1回	7月予定	2,137	2,016	
リニューアル・30周年記念	企画時設定 今年度計5本	リニューアル:5月に3本 ・30周年:11・3の各月予定	11,900	10,632	
エデュケーション&コミュニティ		令和5年(2023年)実施想定		年間収支(税抜千円)	
公演(シリーズ)名	開催想定概要	令和5年(2023年)実施想定	収入	支出	
ミュージックアカデミー・プログラム	企画時設定	8・11・1・2・3の各月予定	3,190	3,522	
キッズ&ファミリー・プログラム	企画時設定	ファミリー8・12各月・プチコンサート等適宜	1,010	1,604	
地域コミュニティ・プログラム	企画時設定	適宜	158	625	
アウトリーチ・プログラム	企画時設定	適宜	367	460	
フィリアホール共催公演	令和5年(2023年)予定ラインナップ ()内数字は想定実施				
共催コンサート	ティボー・ガルシア(Gt)(6)・レオノーラ・アルメッリーニ(Pf)(7)・田所光行マルセル(Pf)(8) ・アレクサンドル・タロー(Pf)(10)・ラファエル・アギーレ(Gt)(10) 神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ(9)・横浜シンフォニエッタ(12)				
マスタークラス・コンクール	国際音楽祭NIPPON諏訪内晶子マスタークラス かながわ音楽コンクール予選・本選会/フレッシュ横浜音楽コンクール				
その他協力公演	TSUKEMEN・フィリアジュニア合唱団(共催)				

I. 第3期の地域事業活動の基本方針

1. 地域事業活動の基本方針

第3期の地域事業は、使命4の達成を中心とします。社会的包摂を意識し、地域文化施設の専門性を踏まえた地域コミュニティ形成・地域コモンズ形成に寄与していきます。第2期でのつながりを発展拡大させ、地域の拠点や区役所と情報・意見交換を行いながら、青葉区全体がフィールドとなり、活動拠点を更に拡げていきます。多様なニーズに対応できる信頼関係を構築させ、より発展させていくことを目指します。青葉区民文化センターが、地域人材との協働事業を推進する一方で、新たな人材育成や地域での活動を模索する音楽家たちとも連携し、育成支援していきます。

◎地域事業の展開は、前述の通り「多様なニーズ」に対応していくことが基本です。社会的包摂の意味を考えて、実施するコンサートやアウトリーチの数が目標ではなく、一つ一つが「意味ある」形で開催することが大切だと思います。社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)は、本来は参加する人々が相互にエンパワーメントを得られる事業だと思います。基本の活動の軸足を確かながら実施していきます。

2. 地域事業活動と他の事業分野の連携強化

第3期は、組織体制として、事業総括責任を持つ「副館長」を選任し、文化事業はもちろん、地域事業や施設利用での活動支援などの文化的事業の全体を俯瞰し、相互に連携を強化させる体制を強化します。これにより、専門性が高い文化的事業のフィリアホールの音楽を地域に連携させ、市民の活動を地域に結び付ける支援策も実施していくようにします。

3. 地域コーディネーターの役割

・専任で配置する地域コーディネーターは、文化事業コーディネーターや施設管理責任者と協力し、地域における「青葉区民文化センターの顔」として地域に根差した活動を行います。地域の情報や課題にアンテナを張り、幅広い人と会話することで、求められていることを把握します。連携先との繋がりを構築し、各施設の特色を生かした事業を企画することで、更なる魅力を引き出し、「地域の事業」として発展させていきます。

II. 令和5年(2023年)の地域事業活動

1. 文化事業と連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ・プログラムとの関連事業

文化事業のE&Cの中で、「キッズ&ファミリー」と「地域コミュニティ」の2分野を主に担当します。ファミリーや幼児向けのプログラムは、対象年齢や内容を吟味し、参加して楽しめる企画を実施します。ワークショップやミニコンサートも、内容を吟味し参加していただく方々に癒される時間を提供していきます。「二つの顔」がともに互いの力を発揮し、連携しあう事業活動だといえます。

●地域の子どもたち・ファミリー層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
夏のファミリーコンサート	8月	夏冬ファミリーコンサートは、入場対象を0歳まで引き下げ、1日2回公演で、対象年齢を分けた内容構成を検討します。若手の活用や社会的包摂も意識していきます。
ウインターコンサート	12月	

●0歳からの乳幼児・子供たち、そして子育て世代層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
プチコンサート ・ワークショップ	年3回程度	プチコンサートは、乳幼児とお母さんが楽しみ、お母さんには「ひと時の癒し」を届ける企画です。対象年齢ごとに内容を変化させ、吟味、改良を重ねて、より楽しめる企画にします。ワークショップでは、恒例となった「手作り太鼓」の企画も今年度も検討します。

●地域の人達に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
オープンデー	8月	施設内のすべてを使ったお祭りイベント「オープンデー」も、楽しみながら音楽や施設を知ってもらおう企画を考えます。地域の人により気軽に音楽に触れる機会を意図する「ロビーコンサート」も文化事業と連携し、内容をブラッシュアップさせていきます。
ロビーコンサート	年2回程度	

2. 市民協働促進に向けた活動

●市民協働促進に向けた活動

市民協働の活動により潜在的ニーズが顕在化し、知恵やネットワークにより新たな事業が生まれます。企画に参加する人材の育成に取組み、地域活性化と次世代へ継承する役割を醸成します。誰もが参加できる企画を協働で実施します。地域の人達自らが「地域コーディネーター」となれるよう、密度の高いコミュニケーションと育成に力をいれます。

●市民協働型の区民企画の実施

企画	時期	企画概要及び計画概要
区民企画公募・選定・協力実施	通年	第3期も区民企画も公募し、「区民による区民の事業」を発掘、バックアップすることで共に成長を目指します。地域課題の解決に繋がる企画案を募集し、本施設とともに協働して事業化し、区民企画者には、企画運営に必要な専門知識やノウハウを享受し、事業を継続して遂行できる人材育成を行います。

●市民企画と施設の共催による「あおばカノン」

2022年度は市の文化助成金事業として認められたイベントです。今年度も、音楽と美術を融合した事業を社会福祉協議会や地域ケアプラザ、支援学校と協働し、障がいやハンディキャップのある方が手掛けた絵画や作品を音楽と絡めながら地域へ発信していく事業を目指していきたいと考えます。

●市民協働・人財育成に向けた活動

演奏家向けの講座開設	地域の演奏事業に力を入れたい演奏家向けに、地域施設の特色や、障がい、育児、介護者の当事者の声を聞く時間や、専門的な音楽ワークショップを学ぶ場などを提供していきます。
区民サポーターの育成	地域のサポーターとしての誇りや自信を持ちながら活動をしていく上で必要な知識や意識してほしい分野を学ぶ場を提供します。
ジュニア合唱団	・「区民企画」から生まれた「フィリアジュニア合唱団」は、運営委員制度に移行し、市民主体の運営により子ども達の育成を目指すため、本施設は引き続き支援を行います。
音楽家の活動の場支援	音楽家を地域の施設や団体へ繋げ、相互の活動へつなげていくコーディネートを行います。

3. 地域連携・地域コミュニティ形成に向けた活動

●地域連携・アウトリーチ活動

地域の様々な施設や団体と連携協力していきます。STスポットを通した学校訪問はもちろん、色々な場所に積極的に出向く活動を展開します。町内会、商店街、企業、個人、地域の施設、団体より希望があれば演奏家を紹介します。ホールまで来ることが出来ない地域の方に生の音楽を届けます。福祉施設や団体と協働したアート活動、地域施設との交流を踏まえた地域課題にアプローチをする活動を行っていきます。

新たに広げたいネットワーク先

・国際交流ラウンジ、・民生児童委員や青少年指導員、・自治会商店街、・中高大学(青葉六大学)、

◎令和5年(2023年)の主要な企画

・学校連携アウトリーチ

学校連携		
STスポット アウトリーチ	下期	STスポットと連携事業(学校対象)。学校と連携し、アーティストと学校を繋げ、「何を子供たちに伝えるのか」という基本を共有したうえで、実りある時を過ごせるようにします。
その他の学校		青葉区民文化センターでは、STスポットの補助対象外の学校でもアウトリーチを実施しており、今年度も要望を聞きながら、多くの学校へのアウトリーチを検討します。

・地域施設連携アウトリーチ

地区センター 連携	適宜	地区センターやコミュニティハウス等と連携では、今まで様々な「場＝拠点」に音楽を届けることができ、コンサート開催は多くの人と触れ合い、新たな繋がりを構築できました。これからも地域の音楽家や若手音楽家とも連携し、気軽に「上質な音楽」に触れる機会の提供を実現させていきます。
ケアプラザ等 連携	適宜	全施設との連携の基盤はできており、今後も内容を検討吟味しながら、発展させていきます。各施設の企画を青葉区民文化センターで実施するという方法でも連携を進めます。

I. 第3期の施設運営活動の基本方針

1. 施設運営活動の基本方針

第3期の施設運営は、使命1の達成を中心とします。日々の練習、日頃の成果を発表する場であり、地域の人々が集える場として、常に利用者ファーストの対応を心掛け、最善のパフォーマンスを発揮できる環境を整えます。今期は、市民団体やアーティストに地域の様々な施設にも「活動拠点」としての場を提供したいと考え、地域ネットワークを通じて、利用する団体・個人が活動範囲を拡げられる支援を行います。本施設が地域拠点及び団体・個人とを媒介するコーディネーター役を務めます。今期の最終目標として、演奏家や団体のデータベースを構築し、誰もが閲覧できる環境を整えることで、市民・アーティストの活動を支援していきます。

2. 施設運営活動と各使命との連動

第3期は、本施設の利用という中心軸に加えて、地域施設での場の提供、市民団体・アーティストの活動支援の部分が重要な役割となります。地域への活動の場提供は使命4の地域事業分野と、一方で活動支援は、使命2の地域での活動家育成にもつながります。今期は、体制として、事業総括責任を持つ「副館長」を選任し、文化事業、地域事業、施設運営での活動全体を俯瞰し、相互に連携を強化させる体制を強化します。

II. 令和5年(2023年)の施設運営活動

1. 施設運営の基本方針

条例及び横浜市市民利用施設予約システム(以下予約システム)に従い、公平公正な施設運営を継続します。今年度下期から抜本的に改定される予約システムに対応し、ご利用がスムーズにかつ利便性が向上されるようにしていきます。「利用要綱」「利用の手引き」や「利用案内」も、必要に応じ改編加筆修正を繰り返します。使命6にある通り、Withコロナの意識を徹底し、引き続き必要な感染対策対応を行い、市民のご利用が継続していける施設運営を行います。

2. 適正な施設運営管理

●適切な利用料金と利用区分の設定

施設利用料金・利用区分については、別表1のとおり、現行利用料金・利用区分の体系を継続しますが、利用者のニーズを把握しながら、ホールなどのインターバルの時間の有効活用と料金を検討していきます。また、現在ホワイエのみの利用(ロビーコンサートのようなもの)の使用料金は明確な定めがなく、区とも協議していききたいと思います。

●優先予約の考え方

施設の優先利用について、改めて市・区との協議を行い、一定の許可基準や年間での利用可能枠などを定め、利用要綱及び利用要綱細則(内規)に定めていきます。場の提供としての支援と一般利用との公平性を考え、詳細を協議していきます。

●利用者ニーズの適正把握

利用人数報告用紙の裏面を活用していましたが、利用者が特定されると「言いづらい」こともあるようで、ほとんど実績がありません。今期は、「匿名」可の意見箱の設置や時期を見て「意見交換会」のようなものも開催していきます。

3. 活動・体験の場の提供の促進

◎稼働促進策

●諸室の稼働(ご利用予約)状況の広報

「空き室状況」はHP、情報コーナー・練習室ロビーへの掲示により、空き枠の確認、予約の促進を図ります。

●ホール空き日の有効利用

従来からのシリーズ企画「ピアニストの夢」と「カゲレン」は、状況に応じ適宜開催します。ピアニストの夢では、スタインウェイを使用する企画も行います。今後は要望や状況により「録音」(有料)の対応も検討します。

ホワイエだけのコンサートや地域施設のイベント、区民企画イベントなども積極的に奨励します。

●リハーサル室の積極活用

活動発表の場として、リハーサル室でのミニコンサート等を活用します。6か月前から公募することでの利用を促し、地域のアーティストが気軽にチャレンジできる機会とサポートを行います。

4. アーティストデータベースの整備

これまで蓄積してきたアーティスト情報や公募による活動団体の情報等をデータベースに集約し、地域の音楽文化振興とアーティストにおける活動の場を提供・支援するためのツールとして、活用したいと考えています。

令和5年(2023年)は情報公開からスタートし、地域への周知を目的とします。登録したアーティスト・団体を外部へ紹介する手段等については他施設事例をもとに検討します。

5. 令和5年(2023年)年間利用率目標

ホール	84%	リハーサル室	82%	練習室1	85%	練習室2	87%	練習室3	86%
-----	-----	--------	-----	------	-----	------	-----	------	-----

I. 第3期の施設管理活動の基本方針

1. 施設管理活動の基本方針

施設管理活動とは、施設の維持管理とその基礎となる収益や人事・規則の管理の総合的な意味を持ちます。第3期の施設管理では、使命5・6の達成を中心とします。コロナ感染に代表される不測の事態に対応し、日常管理を徹底することで、SDGsな施設運営の持続可能性を高める運営を行います。指定管理運営の基本となる安定した収益構造を確立させ、各事業分野が積極的に活動を展開するための「組織」「役割分担」そしてその相互連携を踏まえた管理運営を行います。施設の維持管理でも、経年劣化の進む中で、不測の事態を招かないための活動と継続して維持していくための必要な修繕改修を計画的に実行していきます。

2. 施設管理の基礎となる総務管理的部分の方針

第3期は、組織体制を一部変更します。新たに「副館長」を選任します。副館長は、館長代行であるとともに、事業総括責任者として機能し、文化・地域・施設運営の各事業を総括的に俯瞰し、各事業の連携をさせていきます。また施設管理運営サービス向上のため、舞台管理要員を1名増員し、開館時間内は舞台設備・備品等の管理ができる体制を取ります。共同事業体各社からの要員は、青葉区民文化センタースタッフとして、フラットな組織の下、全員が連携協働して施設を管理運営します。

3. 持続可能性を高める施設の維持管理の基本

第3期のビジョンとして掲げた『“ひと”と“まち”の未来へ文化でつなぐステーション』を念頭に、維持管理業務を通じて、本施設を安心安全・快適に楽しめる場(ステーション)とすることで、利用者・来場者に高いホスピタリティを提供し、幅広い方が訪れる施設を目指します。「安全安心」と「快適」を提供するために重要なのは、施設全体の状況を常時、的確に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築と、些細なことでもスタッフ間で共有し合える関係性を築くことです。

II. 令和5年(2023年)の施設管理

1. 使命5の持続可能性向上のための施設管理

● 予防保全での安全安心快適な環境提供

予防保全を実現するために、日々使用時の点検(日常点検)と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断します。

「安全安心」と「快適」を提供するため、施設の状況を常時的確に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築が必要です。スタッフ同士が密に連携することで、総合的なマネジメント力を発揮し、維持管理業務を的確・スムーズに行います。

状態監視にて故障を予見する「予知保全」の仕組みを取り入れ、経年劣化による損傷等を最小限に抑えていきます。

● 舞台設備保守・備品管理

ホールという特性上、特にピアノや舞台設備、客席の保守管理が重要です。日常点検とは別に、定期的な専門会社による定期点検も確実に実施し、点検内容を確認・検証することで、適切な予防保全を実現します。

ピアノに関しては、各ピアノメーカー専門技術者による保守点検を行い、舞台設備等に関しては、専門の舞台スタッフによる定期的かつ専門的な保守点検を行うことで、利用者満足と来場者の安全確保に努めます。

2期までの管理で蓄積されたノウハウをもとに、設備の状況や施設の汚損度を正確に分析し、最適な維持管理計画を策定することで「安心・安全の確保」と「施設の長寿命化」を実現します。

● 適切な清掃計画による美観維持

日常清掃、定期清掃、特別清掃の適切な組合せにより、こまめな清掃で、美観・環境の維持に努めます。日常清掃では、汚れやシミ等をチェックし、定期清掃でカーペットや床の清掃を行います。日常・定期・特別の組み合わせにより美観及び環境の維持に努めます。

2. 使命6の持続可能性向上のための施設管理

● 横浜市・青葉区との連携・協議による経年劣化対応

青葉区民文化センターは、開業30年を経過し、照明・音響設備や防犯カメラ、空調は経年劣化が著しく、部品等は入手に時間を要し、緊急対応が困難な状況が生じる恐れがあります。予防保全、小破修繕による延命措置と並行し、抜本的な対策として、横浜市・青葉区の保全更新計画と予算措置を連動させた更新改修工事による施設の長寿命化を目指します。

● 小破修繕への考え方

年間修繕費では、前述の抜本的とは別に、日常的に不具合を補修し、劣化対応等を検討していきます。必要な機材の更新には高額となるような場合は新規リース等も視野に入れ対応していきます。

SDGsの観点、幅広い来場者受入の観点からも、ユニバーサルデザイン対応は施設の使命として取り組むべき課題です。サイン等の見直し、段差等でのバリアフリー対応など、来場者が快適に楽しめる空間作りを行います。

3. 光熱水費について

高騰する光熱水費への対応は待たなしです。天井工事期間中に主要な照明機器のLED化を進めており、これによる使用量の軽減は初年度には確認できると見込みます。無駄な電気使用は制限しますが、単価上昇対策は指定管理料の見直しを含め必須検討事項です。

Ⅲ. 令和5年(2023年)の施設の継続性推進

1. 使命6の新型コロナウイルス感染症の長期化を想定した施設運営を継続

不特定多数の方が訪れる施設にとって重要なのは「持ち込まない」「拡げない」ことです。飛沫防止対策や利用ルールの徹底、消毒備品の導入することで、感染症流行時でも、利用者が安全安心に施設を利用できるよう、感染症対策に取り組めます。

Withコロナ・経済回復が見通される今年度は、従前の感染対策やルールを実行しつつ、新たなガイドラインや国の指針等に迅速に対応し、感染対策の緩和を進めるようにします。

2. その他の感染症及び緊急時対応

●コロナ以外の感染症対策

コロナ以外にも、今後感染症発生による運営への影響発生も考えた対策体制構築を図ります。ノロウイルスなど従来の感染症に対しては既存の汚物処理キットで対応し、スタッフが迅速に対応できるように研修を重ねます。

●防災マニュアル等の整備

現在のマニュアルで想定している被害規模を見直すことで、より緻密なマニュアルへ改編を進めます。改編にあたっては、共同体各社が独自に策定している地震対応マニュアル等も踏まえて改編します。

防犯体制では青葉台東急スクエアの警備体制との連携が基本です。ただ施設として、連絡方法や緊急対応などをまとめた「マニュアル」の整備に取り組めます。

●BCP計画の見直し

大規模地震等を想定したBCPに加え、コロナのような大規模感染症に対応したBCPも整備し、スタッフの要員確保や利用の確保、施設開館の継続など、具体的な事象を想定しながら策定します。

Ⅳ. 収支構造、運営組織

別紙：組織図・名簿参照

1. 収支構造と継続安定化

●安定した収入確保：事業収入と利用料収入の安定化

施設運営の基盤である収益の安定化を重要視します。「自主事業収入」の比重が大きいため、券売ルートの開拓とメンバーズの拡大による自主公演収入の安定化と、施設利用率の向上を図り、利用料金収入増を目指します。

●適正な費用支出

広報物の内製化、省電力化、効率的修繕、事務費の抑制等により支出の適正管理を徹底します。

●収支見通しと令和5年(2023年)の収支予算

コロナ感染も鈍化してきていることから、提案収支では、コロナ禍による利用率の減少及び制限等の要素は考慮せず計画しています。令和5年(2023年)においては、ホール天井耐震化工事の影響を鑑み、令和5年4月分は収入を見込んでいません。休館・開館時間制限、人数制限等が発せられた場合、利用者の安全を最優先し、市及び区と協議のうえ、対応方針を決定します。

2. 運営組織の構造・人材育成

●組織体制

利用者の安全安心と心地よく快適な利用者サービス、文化芸術の発信、地域を繋ぐ地域事業の充実・拡充ができる体制を目指し、共同事業体各社から各分野におけるプロフェッショナルな人材を配置します。

提案時とは少し変更して、より充実した事業展開を図るための体制を敷きます。館長と共に事業展開を統括する「副館長」を配置します。豊富な経験により、文化・地域・施設運営の各事業を統括します。

第2期のスタッフを原則継続し、新副館長には従来の文化事業コーディネーターが就任します。文化事業の後任には施設運営管理責任者がつき、留任地域コーディネーターと共に新たな事業展開に臨みます。前述の通り、副館長はその経験を活かし、事業全体を統括します。そのほかの業務責任者・担当者も留任です。舞台管理のスタッフは、4名が登録し、夜の閉館時間まで舞台スタッフの誰かが居るようにして、設備備品や舞台の終業管理を担当できるようにします。

●一体感のある運営組織にするための取組み

各々定期的に各種会議体を開催し、それぞれの目的に応じた情報共有、課題の認識・解決を行います。

主要な会議体

会議体	課題内容	頻度	会議体	課題内容	頻度
青葉区定例会議	事業収支報告・情報共有	年4回	マルチスタッフミーティング	課題共有・意見交換	適宜
共同事業体会議	事業収支報告・情報共有	年4回	課題対応ミーティング	課題共有・意見交換・協議	適宜
事務所ミーティング	業務進捗予定・課題協議	年6回	朝礼・昼礼	課題共有・意見交換	毎日

●スタッフ育成と業務知識の習得

利用者対応、予約システム、発券システム、総務広報、金銭管理等の各業務についてマニュアルを整備しており、マニュアルを通じて業務の基本的知識を養います。適宜マニュアルを整備・更新することで、業務レベルの向上を図ります。

主な研修プログラム・・・基本は年1回を原則とし、年度ごとに実施項目は変化させる

接客接遇	接客接遇	クレーム対応	サービス介助	高齢者体験	障がい者対応
法令遵守	人権・LGBT	コンプライアンス	個人情報保護		
安全衛生	防火防災	救急救命	感染症対策	舞台設備基礎	環境保全
外部一般	外部団体講習	他施設交流			

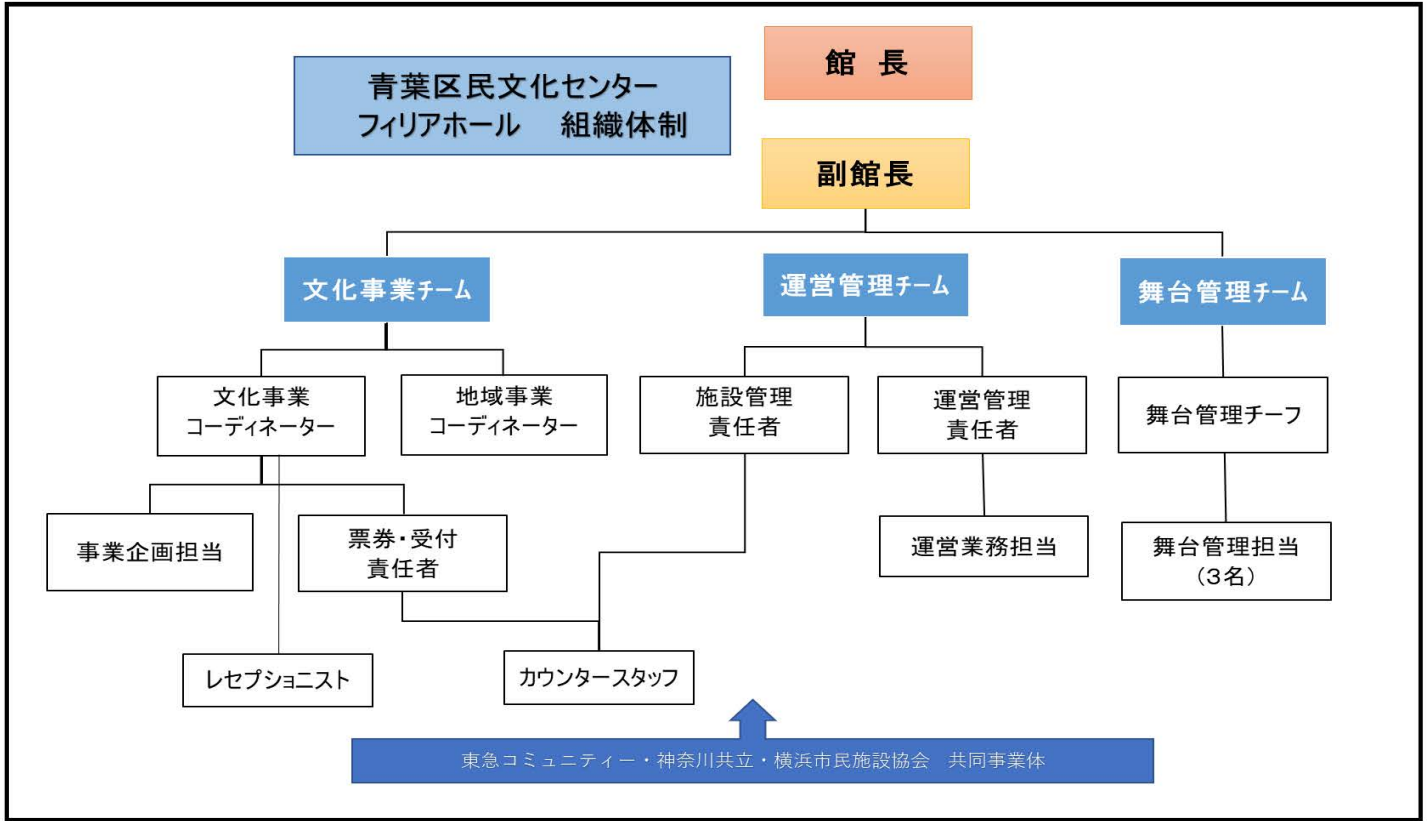
別紙 組織体制及び要員名簿（令和5年度(2023年)）

◎要員体制について

第3期より、「副館長」を選任し、館長代行及び各事業の総合管理として機能させます。

組織再編に伴う過渡期として、施設管理責任者(施設利用事業管理者)は館長・副館長及び各コーディネーターが協働して業務を担当します。

「組織体制図」



令和5年度青葉区民文化センター職員名簿

役職 (職種)	氏名	住所 (在住区名まで)	備考 (メイン担当を記載)
1 館長	八野 治之		兼務:施設利用・施設維持業務
2 副館長			館長代行・文化事業総括兼務
3 文化事業コーディネーター			文化事業計画企画運営・販促
4 地域事業コーディネーター			地域事業・アウトリーチ計画企画運営
5 運営管理責任者			総務・広報・レセプションリスト管理
6 票券受付責任者			票券・販促・関連カウンター業務管理
7 施設管理責任者			施設利用管理・関連カウンター業務管理
8 運営業務担当			経理・庶務
9 事業企画担当			事業企画担当
10 舞台技術チーフ			舞台管理スタッフ責任者
11 舞台技術担当			舞台管理スタッフ
12 舞台技術担当			舞台管理スタッフ
13 舞台技術担当			舞台管理スタッフ

※1: 令和5年(2023年)は、新文化事業コーディネーターに (現在施設管理責任者)を選任。

※2: 施設管理責任者の業務は、当面館長八野治之が兼任兼務します。

「別表1」【青葉区民文化センター・フィリアホール施設基本使用料一覧表】

【単位：円(税込み)】

ホール利用料金

(要綱第15条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール 500席 1階384席 2階116席	入場料 徴収	平日	時間帯料金	(6,800)	18,500	37,500	(10,000)	41,500
			10時～17時		56,000			
			13時～22時		79,000			
			10時～22時		97,500			
	録音・撮影 (営利目的)	土日 休日	時間帯料金	(8,000)	21,500	46,500	(11,500)	46,500
			10時～17時		68,000			
			13時～22時		93,000			
			10時～22時		114,500			
	入場料 無料	平日	時間帯料金	(4,000)	10,500	22,500	(6,000)	24,500
			10時～17時		33,000			
			13時～22時		47,000			
			10時～22時		57,500			
録音・撮影 (非営利・個人 趣味利用等)	土日 休日	時間帯料金	(4,800)	13,500	28,000	(6,500)	27,500	
		10時～17時		41,500				
		13時～22時		55,500				
		10時～22時		69,000				
楽屋	楽屋1、2(18㎡)	10時～17時		500	800	(200)	800	
	楽屋3、4(26㎡)	13時～22時		800	1,100	(200)	1,100	
	楽屋5(36㎡)	10時～22時		1,000	1,600	(400)	1,600	

別表2 リハーサル室・練習室利用料金

(要綱第15条)

名称	面積定員	曜日	10:15～12:15	12:45～14:45	15:00～17:00	17:30～19:30	19:45～21:45
リハーサル室	(71.5㎡)	平日	2,350	2,350	2,350	2,700	2,700
	(80人)	土日・休日	2,850	2,850	2,850	3,000	3,000
練習室1	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室2	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室3	(27㎡)	平日	650	650	650	750	750
	(10人)	土日・休日	800	800	800	850	850

別表3 ホールの練習・リハーサル使用料金

(要綱第15条・利用細則第5条)

用途	曜日	区分	(9時～10時)	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時	
			※調律のみ					
ホール 500席 1階384席 2階116席	練習利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,350	15,750		17,150
			10時～17時		23,100			
			13時～22時		32,900			
			10時～22時		40,250			
	土日 休日	時間帯料金		9,450	19,600		19,250	
		10時～17時		29,050				
		13時～22時		38,850				
		10時～22時		48,300				
	リハーサル 利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,300	15,700	(4,200)	17,100
			10時～17時		23,000			
			13時～22時		32,800			
			10時～22時		40,200			
土日 休日	時間帯料金		9,400	19,600	(4,550)	19,200		
	10時～17時		29,000					
	13時～22時		38,800					
	10時～22時		48,300					

別表2
維持管理年間計画(通年)

	業務	内容	頻度	実施詳細
機械設備	空調設備総点検		1回/年	全室空調設備の総点検
	空調設備フィルター保守	定期点検	1回/年	事務所空調機フィルター清掃
舞台設備等	舞台設備保守管理点検	定期点検	3回/年	舞台吊物等メンテナンス
	照明設備保守管理点検	定期点検	2回/年	舞台照明設備メンテナンス
	音響設備保守管理点検	定期点検	1回/年	音響装置メンテナンス
	ITV設備保守管理点検	定期点検	1回/年	映像設備メンテナンス
	ホール客席保守点検	定期点検	1回/年	指定業者により実施
ピアノ保守等	ピアノ保守管理(ホール) (スタインウェイ2台)	定期点検	各1回/年	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による保守点検
	ピアノ保守管理(ホール) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(楽屋3) (ヤマハアップライト1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(練習室2・3) (ヤマハアップライト2台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ調律(ホール)※1 (スタインウェイ2台)	調律	使用時	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による調律 ※保守点検時に調律実施。
	ピアノ調律(ホール)※2 (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	3回/年	
	ピアノ調律(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	11回/年	
	ピアノ調律(楽屋3) (ヤマハアップライトピアノ1台)	調律	5回/年	
	ピアノ調律(練習室2,3) (ヤマハアップライトピアノ2台)	調律	5回/年	
清掃等	日常清掃業務	—	毎日	施設内清掃
	定期:床洗浄・ワックス塗布		1回/3ヶ月	
	定期:カーペット洗浄		1回/年	
	定期:窓ガラス(内面)		6回/年	
	特別:状況により		1回/年	汚れ、劣化の状況により実施
環境管理	ホール環境測定(空調・温度)		4回/年	空調・温度環境測定
	ホール環境測定(照度)		2回/年	照度測定
	害虫駆除※3		2回/年	バーカウンター等の害虫駆除
小破修繕		—	適宜	

※1: ホールスタインウェイグランドピアノは、定期保守調律以外に、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※2: ホールヤマハグランドピアノは、定期保守調律に加えて、年3回は調律を管理者負担で実施。使用状況により不定期に実施する場合もある。(なお原則として、施設利用者の使用時の負担なし・調律希望の場合は有料)

※3: 環境管理中の害虫駆除は、定期清掃時バーカウンター内を年1回実施。必要に応じて、ホール内、楽屋給湯室等を1回追加する場合がある。

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。

令和5年(2023年) 「青葉区民文化センター(フィリアホール)」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	157,369,000		157,369,000		157,369,000	横浜市より
利用料金収入	26,224,000		26,224,000		26,224,000	想定稼働増・ホール営業目標設定
自主事業(指定管理料充当の自主事業)収入	56,415,000		56,415,000		56,415,000	自主・共催とも通常通り開催
自主事業収入			0		0	
雑入	3,621,000	0	3,621,000	0	3,621,000	
印刷代	48,000		48,000		48,000	
自動販売機手数料	264,000		264,000		264,000	
駐車場利用料金収入			0		0	
その他()	3,309,000		3,309,000		3,309,000	協賛金は変わらず・貸館関係子チケット委託等見込まず
収入合計	243,629,000	0	243,629,000	0	243,629,000	

支出の部

科目	2022予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	89,340,000	0	89,340,000	0	89,340,000	
給与・賃金	76,776,000		76,776,000		76,776,000	共同体要員増
社会保険料	12,564,000		12,564,000		12,564,000	上記給与の法定比率
通勤手当	0		0	0	0	
健康診断費			0		0	
勤労者福祉共済掛金			0		0	
退職給付引当金繰入額			0		0	
事務費	9,875,000	0	9,875,000	0	9,875,000	
旅費	2,316,000		2,316,000		2,316,000	旅費交通費交通・通勤費:社員交通費
消耗品費	1,254,000		1,254,000		1,254,000	各種消耗品:事務用品等を削減
会議賄い費			0		0	
印刷製本費	490,000		490,000		490,000	名刺・コピー・施設販促は削減
通信費	1,795,000		1,795,000		1,795,000	通信費(Wifi分増)・郵送料・運搬費(例年並み)
使用料及び賃借料	0	0	0		0	
横浜市への支払分			0		0	
その他			0		0	
備品購入費	300,000		300,000		300,000	備品購入
図書購入費	32,000		32,000		32,000	図書購入
施設賠償責任保険	58,000		58,000		58,000	損害保険料:ボランティア保険(社協等利用)
職員等研修費			0		0	
振込手数料			0		0	諸経費内振込・両替手数料他
リース料	3,017,000		3,017,000		3,017,000	各種リース:抗菌マット・トイレ用品増
手数料	613,000		613,000		613,000	公演チケット連動
地域協力費			0		0	
事業費	59,926,000	0	59,926,000	0	59,926,000	
自主事業(指定管理料充当の自主事業)費	55,944,000		55,944,000		55,944,000	自主事業費:出演料等増
自主事業費	3,982,000		3,982,000		3,982,000	HP改良費用追加
管理費	62,062,000	0	62,062,000	0	62,062,000	
光熱水費	12,010,000	0	12,010,000	0	12,010,000	
電気料金	11,117,000		11,117,000		11,117,000	使用量2019実績の15%減(LED化効果)・単価2022より20%UP
ガス料金	0		0		0	該当無し
水道料金	893,000		893,000		893,000	使用量は2019実績並み・単価2022実績より2%UP
清掃費	4,053,000		4,053,000		4,053,000	専用清掃・特別清掃(費用縮小)
修繕費	3,000,000		3,000,000		3,000,000	修繕費
機械警備費			0		0	該当無し
設備保全費	4,599,000	0	4,599,000	0	4,599,000	
空調衛生設備保守	310,000		310,000		310,000	空調機点検(予防保全含む)・フィルター交換
消防設備保守	23,000		23,000		23,000	防火対象物点検
電気設備保守	0		0		0	
害虫駆除清掃保守	24,000		24,000		24,000	各種測定:空調・照明・害虫駆除等
駐車場設備保全費	0		0		0	
その他保全費	4,242,000		4,242,000		4,242,000	舞台設備保守:その他保全費(緊急保守等)
共益費	38,400,000		38,400,000		38,400,000	共益負担金
公租公課	14,073,000	0	14,073,000	0	14,073,000	
事業所税			0		0	
消費税	14,025,000		14,025,000		14,025,000	消費税相当分:
印紙税	48,000		48,000		48,000	収入印紙
その他()			0		0	
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	8,353,000	0	8,353,000	0	8,353,000	
本部分	6,918,000		6,918,000		6,918,000	当社本社経費分(固定金額)
当該施設分	1,435,000		1,435,000		1,435,000	事務経費・その他諸費用 費用削減
二一ズ対応費	0	0	0	0	0	
支出合計	243,629,000	0	243,629,000	0	243,629,000	
差引	0	0	0	0	0	

自主事業費収入	56,415,000		56,415,000	0		
自主事業費支出	59,926,000		59,926,000	0		
自主事業収支	△ 3,511,000		△ 3,511,000	0		

管理許可・目的外使用許可収入						
管理許可・目的外使用許可支出						
管理許可・目的外使用許可収支						